

# ザ・ジャーナル!!

Vol.3 No.2

夏号

“やさしさ便り～岡山医療センターの今”

URL <http://www.hosp.go.jp/~okayama/> E-mail [info@okayama3.hosp.go.jp](mailto:info@okayama3.hosp.go.jp)

## CONTENTS

This is our hospital ●センターTOPICS ——— 2.3

ジャストナウ ●脳神経系特集 ——— 4～6

●わたしの趣味 ——— 6

●看護師募集 ●看護学生募集 ——— 6

シリーズ ●岡山医療センター物語 第10話「がんを体験して」 ——— 7

●病院の設備について ——— 7

●病院活動案内 ——— 8



写真 | 夏祭り(2008.8.7)

### 地域医療支援病院・がん診療連携拠点病院

#### 岡山医療センターの理念

一人にやさしい病院— をめざして

—Human Friendly Hospital—



- 1: 患者さまにやさしい病院を目指します
- 2: 病院で働く人にやさしい病院を目指します
- 3: 地域の人にやさしい病院を目指します

## セ|ン|タ|ー|T|O|P|I|C|S



### 相互理解と情報の共有化の場 「院内発表会」を開催して

臨床研究部 田村 浩二

独立行政法人化後、新たな取り組みとして2004年から毎年5月に「院内発表会」を開催しています。病院における医療の質の向上をはかるには、医療を提供する職員がそれぞれ専門職として各分野において技術・知識の研鑽をはかることが必要です。本会は「各部署の特色、課題、業務における新たな取り組み、研究活動などを発表し合い、それぞれの相互理解と情報の共有化の場」として「個からチーム、そして組織へ」をメインテーマに掲げ全ての職種が参加し、口演のみならずポスター掲示による紹介、写真掲示等と幅広い発表を行い、毎回演題数も増え、開催時間の延長を余儀なくされる盛会ぶりです。

さらなる内容の充実への意見も寄せられており、次年度からは、工夫を加え“全参加型のシンポジウム形式”の一部採用を行い、より効果的な「相互理解と情報の共有化の場」として継続していきたいと考えています。



◀口演会場



和やかな質疑

▶ランチタイム



「診断・臨床統計」「活動報告」のポスター展示



行事写真展



300名分の軽食  
職員によるハンドベル  
ミニ・コンサート

### 看護学校オープンスクール

看護学校教員 秋本 洋子



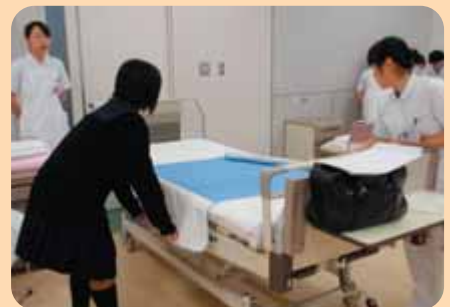
5月24日(土)、7月19日(土)の両日、岡山医療センター附属岡山看護学校のオープンスクールを行いました。1回目には43人、2回目には95人の参加者をお迎えしました。県内、近県からの参加者が多く、長崎からご両親とともに来られた方もありました。

副学校長の挨拶に始まり、フィジカルアセスメントのシミュレータ&トレーニングモデルのフィジコを用いた公開講座では、実際に参加者の方々に聴診器を用いて呼吸音や心音を聴いてもらい、音の変化に驚いた表情をされていました。看護技術体験コーナーでは、1年生がベッドメイキング、2年生が血圧測定と手洗い、3年生が沐浴と妊婦体験を参加者の方々に指導しながら体験してもらいました。どんなふうに説明すれば分かりやすいのか四苦八苦していましたが、参加者の反応を見ながら丁寧に対応

していました。そして、11:30からの食事コーナーではサンドイッチやデニッシュなどの菓子パンとジュースを摂りながら、学校生活や寮生活などの体験を在校生に直接聞ける時間を設けました。この頃になると参加者の方々の緊張も解けたくさんの質問が出ていました。この他に実習施設である岡山医療センターの病院見学を企画しました。病棟師長様をはじめスタッフの皆様には説明など、お忙しい中ご協力をいただきありがとうございました。

3年生や2年生は実習と並行して準備を進めてきた結果、参加者の方々から「楽しかった。学生の笑顔と優しい対応が嬉しかった。」などの感想をいただきました。1年生も普段は見せない大人びた対応を見せ、学生の成長も感じる機会ともなりました。

今後も、一人でも多くの共に学ぶ仲間を桜の花とともに迎えられよう、当校の良さをPRしていきたいと思ひます。





## 柱に描いた絵 童画家 中山 忍

私が小児科棟のプレイルームにある丸い柱に、絵を描かせていただいたのは、2年前の事になります。院長先生から「柱を見て創作意欲がわいたら描いてほしい!」と言われ、すぐに見に行ったら、ひと目で「描きたい!!」と思いました。

いつもは、家のアトリエで紙の上に描いているので、柱に描くというのは、緊張感もあり、やりがいもあります。さあ何を描こうかな。子ども達の喜ぶ絵、やっぱり動物を中心に描こう。そこまではすぐに決まったのですが、なかなかそこから進みません。

病气やケガと懸命に戦っている子ども達、そのそばで我が子を見守っているお母さん、あるいはお父さんのために、どんな絵がいいのだろう…しばらく悩みました。

そんなある日のこと、本屋さんで、ふと目に止まったのが、まど・みちおさんの詩集でした。『くまさん』という詩に、胸の奥がグツと熱くなりました。「まどさんの詩は、どれも自分に生まれてきたことを喜んでいる」と本のあとがきには書かれていました。その言葉を読み、私の描くべき方向が見えてきたのです。8本の丸い柱は、まど・みちおさんの詩をイメージして描こう、まどさんの詩の力を借りて描いていこう、そう決めました。

まず一番に描いたのは、童謡で馴染みのある「ぞうさん」という詩。お母さんぞうと子どものぞうが、仲良く寄り添っているようすです。この柱の絵を見て、少しでも入院中の子ども達や、お母さんお父さんの気持ちが和んでくれたらいいな。ちょっとでも気分転換になればいいな。そんな想いをいっぱい込めて柱に絵を描きました。いつも、まどさんの詩集を持って行き、描く時は、そばにおいてよりどころにしました。

病院に描く絵のことを『ホスピタルアート』と呼ばれます。このホスピタルアートの役割のひとつに、人と人との気持ちをつなげるきっかけになる事というのがあります。ある日、柱に描かれたキリンを指差しながら、ぐずっている女の子をあやしているお母さんを見たとき、ああ役にたってるんだ。と嬉しくなりました。また、別の日には、小さな男の子が、描きあがった柱にギュッと抱きついてのを見ました。このようすは何度思い出しても絵描き冥利に尽きるなと思っています。

あれから2年たち、8本の柱の絵は、すいぶんプレイルームに溶け込んできました。保育士さんが作る季節の飾りつけども、入院中の子ども達が描いた可愛い絵とも、そして窓の外の屋上庭園に咲くバラの花とも、仲良くまじりあっている、そんな気がするのです。

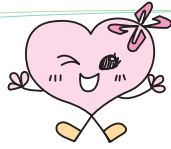
私がおびのびと制作できたのは、院長先生をはじめ、お医者さんや、看護師さん、保育士さんの協力があったのことに感謝しています。そして、お会いしたことはありませんが、来年百歳を迎えられる、まど・みちおさんにも感謝の気持ちでいっぱいです。



### ●PROFILE

童画家。  
1958年岡山県生まれ。  
岡山工業高校工業デザイン科卒業。  
最近では保育園や病院などの壁面も制作する。  
月に1回「イトチン便り」発行。





# わが病院の光るワザ

## 脳神経系特集

### 高齢化社会と 脳神経外科

#### 脳神経外科 難波 洋一郎



脳神経外科があつかう疾患には、1)脳血管障害(クモ膜下出血、脳内出血、脳動脈狭窄)

2)脳及び脊髄腫瘍 3)頭部外傷 4)三叉神経痛、顔面痙攣 5)脳及び脊髄の先天奇形、があります。当科の年間手術件数は約150例でその1/3をクモ膜下出血の原因である脳動脈瘤に対する手術や脳腫瘍摘出手術が占めます。全手術例の半数以上が緊急ないし準緊急となるものですが、スタッフ3名が24時間オンコール体制で患者さんの治療にあたっています。最近では糖尿病、心臓病、腎臓病等の合併疾患を有する例が多く、そのような患者さんに対しては他の専門各科スタッフと連携を図りながら総合的な治療を行っています。

高齢化社会にともない脳血管障害(いわゆる脳卒中)だけでなく認知障害(いわゆるボケ症状)が問題となっています。昔から脳神経外科と脳卒中はつながりが深かったのですが、認知障害を起こす病気のなかにも脳外科的手術により改善する可能性のあるものがあります。その代表的なものが慢性硬膜下血腫と正常圧水頭症です。前者は軽い頭部打撲を契機として数週間から数ヶ月の経過で徐々に頭蓋内に血液が貯留し脳を圧迫する病気です。多く

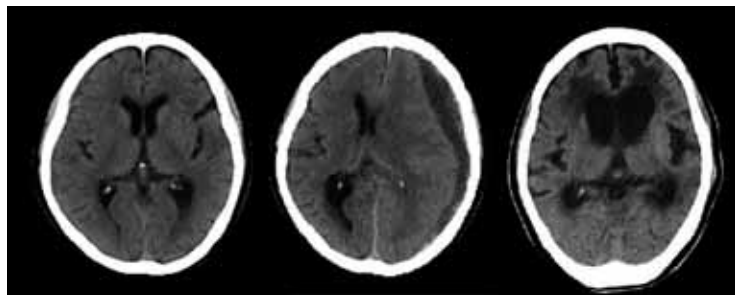
の場合、頭痛、半身麻痺症状が出ますが認知症様の症状がみられることもあります。比較的簡単な手術(局所麻酔で貯留した血液を除去する)でほぼ完治します。後者はさまざまな原因(原因不明なものもある)で、脳の内にある脳室という空間に脳脊髄液が貯まりすぎたために、脳が圧迫されておこる病気です。認知症様症状、歩行不安定、失禁等の症状がみられます。脳室腹腔シャント(脳内に貯留した脳脊髄液を皮下に埋め込んだカテーテルを通じて腹腔内へ流してやる)という手術で症状が改善する例があります。両者共に頭部CT検査により簡単にスクリーニングできるので、年だからしょうがないとあきらめずに一度は脳の検査を行ってください。

### 血栓溶解療法と SCU

#### 神経内科 真邊 泰宏



我が国の脳卒中による死亡者数は年間約14万人で減少傾向にあるものの、悪性腫瘍に次いで第3位となっております。脳卒中患者数は約170万人とされていますが、人口の高齢化に伴い2020年には300万人に達すると予測されています。さらに寝たきりを含む要介護者124万人のうち30~40%は脳卒中が原因

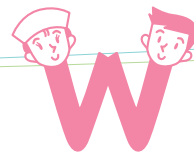


正常頭部CT

慢性硬膜下血腫

正常圧水頭症

N O

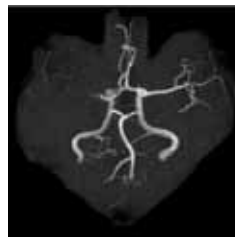


SCU内モニター監視中

とされ、寝たきり原因のトップとなっています。このように脳卒中は医学的にも社会的にもきわめて重要な疾患と考えられます。当院では2002年7月に脳外科と神経内科が共同で脳卒中センターを設立しました。24時間365日on call体制で全ての急性期脳卒中患者を受け入れてきました。

2005年10月、我が国でも組織プラスミノゲンアクチベーター(t-PA)が脳梗塞の超急性期治療薬として認可されて以来、米国同様、脳梗塞をbrain attackと呼び、重要性が強調されるようになりました。脳卒中センターが各地で開設され超急性期治療を行い良好な予後を得ている患者が増えつつあります。しかし、発症から3時間以内に治療を開始するには、最低2時間以内に病院に到着する必要があります。最近のデータでは3時間以内に到着するのは約36%、2時間以内となると20%前後と考えられています。さらにそのうち厳格な適応基準に適合するのは、多くて10%と考えられます。そのため脳卒中救急医療体制の確立が急務です。そこで2007年7月より9A病棟に脳卒中集中治療室(SCU: Stroke Care Unit)を設立しました。ベッド数は4床を確保しております。1床は空床にし、脳卒中では救急車がストップしない体制を作っております。脳外科3名、神経内科4名の計7名が

診療にあたり、脳卒中に熟練した看護師を配置しております。またホットラインを設置し救急隊やかかりつけ医から直接連絡を受ける体制にしております。現在までに19名にtPA治療を行い約70%で良好な結果を得ています。このように途切れのないより迅速な体制で脳卒中に対応しております。



tPA投与前



tPA投与後

### チーム医療への参加と 禁煙外来

#### 精神科・心療内科

清水 義雄



当院の精神科・心療内科は精神科医師2名で担当しています。当院の精神科・心療内科には入院病床はありません。院内コンサルテーションと外来診療が私たちの主な仕事です。まず、院内コンサルテーションについてですが、身体疾患の治療のために当院に入院中の患者様にせん妄やうつ状態などの精神的な合併症がおこることがあります。その診断や治療を行うことで、主治医・看護師と協力して患者様の生活と医療の質の向上を目指しています。また当院の緩和ケアチームの一員として、入院患者様の症状緩和を目指して活動しています。

次に外来診療についてですが、気分障害や不安障害を中心に多彩な患者様を診察しています。入院が必要な患者様を精神科専門病院に紹介するのも私たちの大切な役割です。夕

脳神経系特集

私たちは進化しつづけます

脳神経系特集

わが病院の“光るワザ”

バコを止めたい人の相談窓口である禁煙外来を、当院では精神科・心療内科が担当しています。平成18年7月から禁煙外来が保険適応になりました。この保険適応は外来患者様のみを対象としていることや3ヶ月間しか保険適応がないことなどの制約がありますが、今後も支援を行っていきたくて考えています。

近年、医療のさまざまな領域で多業種のスタッフとの協力のもと行われるチーム医療の重要性が指摘されています。私たちの仕事も、

院内コンサルテーションにおいては院内の主治医・看護師をはじめとした多業種のスタッフとの協力のもと、外来診療においては入院加療などの専門治療をお願いする精神科専門病院の先生方や、当院の外来受診を紹介して下さる地域のかかりつけ医の先生方の協力があって、はじめて成り立つチーム医療です。今後も皆様の協力を頂きながら、患者様の生活と医療の質の向上に貢献していきたくて思いますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

私の趣味 猛虎命

新生児科後期研修医 森 茂弘

これは趣味というか私の生活の一部となっているのが阪神タイガースの応援です。そもそもなぜこんなに阪神にはまってしまったのかはわかりませんが、今のようにスカパーのない小学生の時には、高い確率で負けてしまうにも関わらずラジオ片手に宿題しながら一喜一憂していた事を思い出します。特に好きな選手が誰というわけではないのですが、阪神球団と甲子園をこよなく愛し、大学時代に大阪に住んでいた時は弱小の頃から何度も甲子園に足を運んでいました。2003年のセリーグ優勝時には個人的にビールかけも実施しました。幸い今年是好調で、23年ぶりの日本一も夢ではありません。日本一を達成した際には阪神ファンを募って祝勝会の開催を計画したいと思しますので、この病院にも大勢いると思われる阪神ファンの皆様ぜひ御参加ください。

この写真はNICUの医師控室前です。



病院の進化に向けて看護師を大募集中!

花と笑顔と語らいの病院でいっしょに働きませんか?

- 院内に保育所を設置 (保育時間8~18時)
- 宿舎5階建100室 (ワンルームタイプ、キッチン・バス・トイレ付)
- ※詳細はお問い合わせください

随時採用

応募についての詳細は  
当院ホームページをご覧ください。  
詳細は、☎086-294-9911 人事担当まで。



看護学生募集のお知らせ

看護学校でお待ちしています

附属岡山看護学校の一般入試日程は下記のとおりです。

1. 願書受け付け  
平成20年12月24日(水)~1月13日(火)
2. A日程:平成20年1月21日(水)
- B日程:平成20年1月28日(水)

推薦入試、社会人入試もあります。入試に関する詳細は、☎086-294-9292 までお問い合わせください。



## シリーズ 岡山医療センター物語 第10話

## がんを体験して [4回連載]\_part2

6A病棟入院 松浦 洋子

がんの治療は人それぞれですが、私の場合は手術と化学療法、すなわち抗がん剤投与でした。抗がん剤がきつい治療だとは知っていましたが、私の認識不足を再確認してしまいました。第一回投与の時、なんだこんなものか、楽勝じゃないかと思ってしまいました。浅はかでした。回数が重なっていくほどに浸透していくほどに強力なきつさを体感しました。

「毒を以て毒を制す」ということがあります。「これは薬なのだろうか毒なのだろうか」正直な感想です。食事を受けつけなくなりました。精神的に落ち込んで食欲がないとか、おいしくないから欲しくないというレベルではありませんでした。私の細胞全てが、食物を拒絶しているようでした。がん細胞が消滅するか、正常細胞が負けていくか、これは戦いだと思いました。

あと抗がん剤を点滴投与するの、一回、一回、血液検査があり状態がよくなければ、延期になるということも知りました。通院治療でしたが、毎回試験を受けているような気持ちでした。肉体的には苦しいけど、抗がん剤が投与できるのはとてもありがたいことなのだと思います。副作用のバイオリズムを計りながら食べることに、自分ではよく努力したと思います。家族の協力のもと、食べることに試行錯誤しながらよく副作用の門をくぐりぬけていきました。病気以前は「食べること」は健康の為でしたが、がんになってからは「食べること」が生きることと繋がっていることに考え方が変化していき

絶対負けない!



ました。副作用軽減の為の服薬、点滴あるいは、減ってしまった白血球の補充の注射など医学の進歩も肌で感じました。

髪というか体毛もすっかり抜けてしまいました。髪が抜けるということに肉体的苦痛を感じなかったのであまり悲しさを覚えませんでした。ただ、私の場合、頭が小さかったのでカツラが小児用となりました。がんの為小児用のカツラが製品化されていることにとっても哀しさとしんじさを感じました。また、とても寒くて夜、毛糸の帽子を被って寝ていました。

抗がん剤通院治療中は、副作用に苦しみながら、よくテレビを見ていました。画面から写し出される日常普通に働いている人々、暮らしている人、さりげなく動いている人々が光り輝いてみえました。海辺の町から生中継にて映る年配の海女の女性たちの太陽のような笑顔、自然に向き合っている心身のたくましさ、心からうらやましいと思いました。あと旅番組をよく見ていました。動けぬ自分でしたが、テレビの画面で旅をしていました。体力がなかったのでしょうか、8時台でしたが終わりまで見ることなくいつのまにか眠ってしまっていました。それとは反対に朝新聞を広げて死亡欄に目を通すのは何となく嫌でした。

(次号へ続きます)

## [病院の設備について]

企画課長 大西 寛征

初回の主人公は「水」です。水については岡山市水道局からの給水を受けている「上水」（いわゆる「水道水、市水」）と「下水」がありますが、水の有効活用を図るため、生活排水等を再生処理して循環利用する「中水」というものもあります。

上水については、飲用等として通常使用している水であり、当院では、直接人体と接する手洗い、風呂等に使用しています。従って主に使用しているのは上水ということになります。では、中水はどこに使用して

いるかという、直接人体と接しないトイレ用水に使用しています。この中水は、上水等の排水を水質基準に沿った浄化処理を行ったうえで、上水とは別系統の配管路を整備し給水しております。なお、トイレに設置しているウオシュレット用水は上水を使用しています。

このように中水にかかる設備投資は必要でしたが、このおかげで上水の使用量は削減できています。

※次回は、電気の話をしします。

# [病院活動案内]

## 地域医療研修室 セミナー・講演会 (9月～10月) 会場/当院4階大研修室 時間/19:30～20:30

日程	種別	演者
9月25日(木)	第59回 地域医療研修室講演会	ここまでできるIVR 画像ガイド下の検査医療 当院放射線科医師 向井 敬
10月14日(火)	第25回 薬剤師研修会	糖尿病の薬物治療 当院代謝内科医師 利根 淳仁
10月21日(火)	第83回 初期治療セミナー	胃癌の診断に生検は必要か NBI・拡大内視鏡を用いた 胃癌診断の最前線 当院消化器科医師 万波 智彦

### ●鹿田レガッタ ～2008～●

初期研修医 大塚 寛昭

キャプテン大森(神内、リハ科)率いるチーム『岡山医療センター』は今年10艇という大船団で、鹿田レガッタ(岡山大学医学部ボート部主催)に参加いたしました。

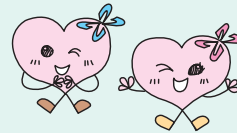
レガッタとは4人の漕ぎ手と、コックスと呼ばれる舵取り1人によって構成されたボートです。『キャッチ!アン、ロウ!キャッチ!アン、ロウ!』と5人で声を合わせて船を漕ぎ進めて競います。

当日は天候にも恵まれ(恵まれすぎて炎天下!)、川原にテント



を張り、病院スタッフのみなさんでバーベキューを囲みながらみんなで楽しく選手を応援しました。

レースの結果は入賞には至りませんでした。今年も楽しくレガッタ、バーベキューができたこと、参加されたスタッフのみなさんとの交流、親睦が深まったことで大会を終えることができました。来年こそは優勝をめざして『キャッチ!アン、ロウ!』をかけ声にがんばっていきたく思います。



## 国際医療協力室からのお願い

当院では、日本語のわからない外国人の患者さまが、当院の外来を受診されたり、入院となった場合に、医療通訳のシステムを整備しつつあります。英語のできる方は、スタッフにも多く、大体確保できているのですが、英語以外の言葉、たとえば、中国語、ハングル、ポルトガル語、ベトナム語、フィリピン語、フランス語、ドイツ語の通訳スタッフが不足しています。当院の、医療通訳サポーターとして、登録、活動してみたい方は、下記までご連絡ください。

岡山医療センター 地域連携室または国際医療協力室まで



### 編集者から ●あとかぎ

おかげさまで夏号(すでに秋風が吹いていますか…)を発行することができました。皆さん、夏休みはいかがだったでしょうか。高校野球や北京オリンピックのテレビ中継にき付けになっている間に、独走態勢のはずであった阪神タイガースのマジックがついたり消えたりする始末。まだまだ気の抜けない残暑の季節です。私は夏休みに、斎藤 孝さんの『座右のニーチェ』という本を読みました。『ツァラトゥストラ』で有名なニーチェですが、恥ずかしながら、じっくり手にとって向き合ったことがありませんでした。ニーチェの思想

の根幹は「理想に向かって飛ぶ一本の矢になって瞬間瞬間を、過剰なまでに元気に、楽しみながら、ためらうことなく前進する」という生き方にあるのだということが良く理解でき、読後に、何かしら「やらなくっちゃ!」という『活!』を入れられた心持がしました。そういえば、わが病院にも、ニーチェに似た考え方が一人、院長室にいましたね。いよいよ秋の陣。『青山ニーチェ』の次なる『活!』は何でしょう。みんな、頑張りましょうね!  
(大森 記)

## ザ・ジャーナル!!

第3巻 第2号

平成20年9月15日発行(年4回発行)  
編集責任者 大森信彦  
独立行政法人 国立病院機構  
岡山医療センター 地域医療連携室  
広報誌編集チーム  
〒701-1192 岡山市田益1711-1  
Tel.086-294-9911 Fax.086-294-9255  
印刷:山陽印刷株式会社